

計画の目的

計画の目的

1 計画の背景

綾瀬川は、埼玉県と東京都を流下する都市河川であり、近年の都市化の進展に伴う首都圏の拡大と中小工場の集中などにより、生活雑排水及び工場排水の流入が増大していた。更に、流域の水源は、桶川市小針領家、蓮田市高虫、伊奈町小針新宿などの農業排水であることから、元来自己流量が少なく、灌漑の終わる冬場においては著しく水量が減少し、顕著な水質汚濁を呈していた。その結果、綾瀬川は全国一級河川の水質ランキングで、昭和55年の公表以来、平成6年まで15年連続して国土交通省管理の河川において最下位を記録しており、早急な水質改善が望まれていた。

このような状況のもと、綾瀬川流域では学識経験者、自治体、河川管理者が集い、昭和61年に「綾瀬川河川懇談会」、平成7年には全流域の自治体が参加のもと「綾瀬川清流ルネッサンス21地域協議会」を設立し、「綾瀬川清流ルネッサンス21計画」を策定した。綾瀬川清流ルネッサンス21計画のもと、流域一体となった水環境改善努力を推進した結果、綾瀬川の水質は著しい改善傾向が見られており、地域の念願であった水質ランキングの最下位脱却を平成7、8、10、12年、14年、15年の6ヶ年において果たしている。

しかし、その一方で、綾瀬川上流域においては依然としてBODの環境基準値を超過しており、古綾瀬川、伝右川、毛長川などの流入支川については本川と比較して水質汚濁が著しい。また、ゴミの浮遊や異臭などの不快な状況も見られており、流域住民の願う本来の望ましい綾瀬川の姿を取り戻すためには、継続的な水環境改善努力が必要であるものと考えられる。

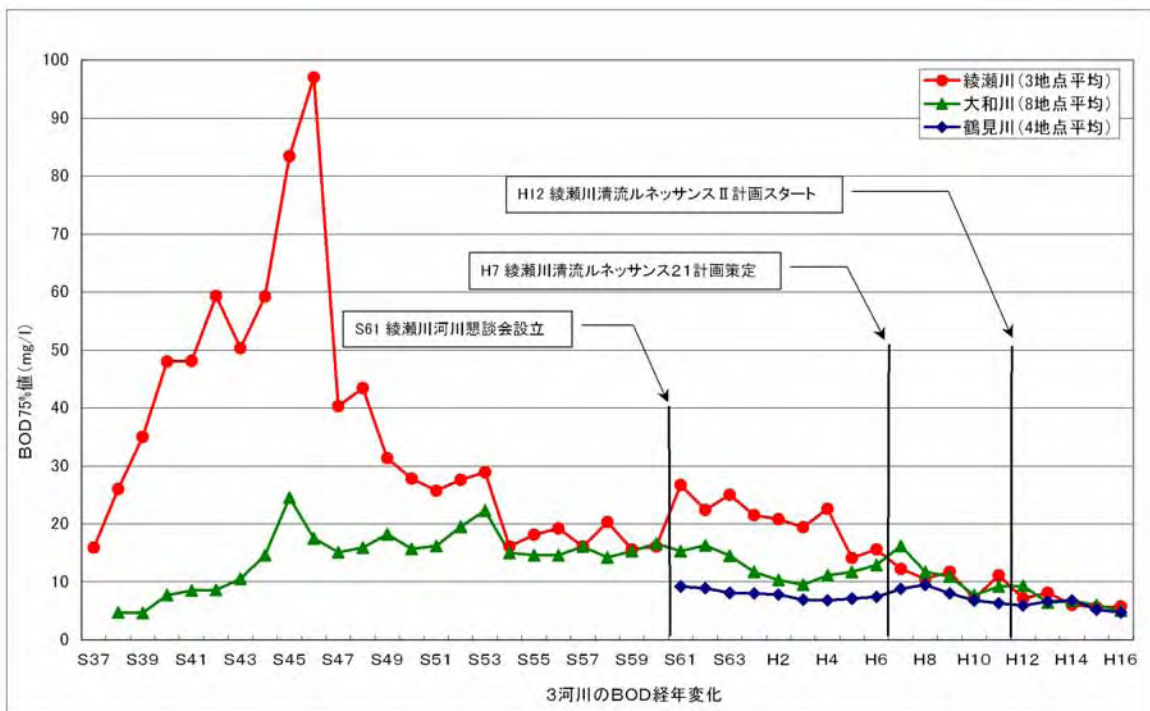


図 -1 3河川のBOD経年変化(国土交通省管理区間)

表 - 1 直轄管理区間における河川水質が最も高い河川一覧

	順位	河川名	都道府県名	地点数	環境基準 満足地点 数	BOD 平均値 (mg/L)	BOD75%値 (mg/L)
平成 16 年 (2004 年)	1	綾瀬川	埼玉・東京	3	0	5.7	6.1
	2	中川	埼玉・東京	5	1	4.6	5.9
	3	大和川	大阪・奈良	8	6	4.6	5.0
	4	鶴見川	神奈川	4	3	4.5	4.7
	5	牛淵川	静岡	2	2	2.7	3.0
平成 15 年 (2003 年)	1	大和川	大阪・奈良	8	3	5.3	6.0
	2	綾瀬川	埼玉・東京	3	1	4.9	5.6
	3	鶴見川	神奈川	4	4	4.3	5.2
	4	中川	埼玉・東京	5	5	3.8	4.1
	5	牛淵川	静岡	2	2	3.0	3.0
平成 14 年 (2002 年)	1	鶴見川	神奈川	4	3	5.5	6.8
	2	大和川	大阪・奈良	8	7	5.5	6.7
	3	綾瀬川	埼玉・東京	3	2	5.4	6.0
	4	猪名川	大阪・兵庫	3	3	4.1	5.0
	5	中川	埼玉・東京	5	4	3.9	4.7
平成 13 年 (2001 年)	1	綾瀬川	埼玉・東京	3	3	6.4	8.1
	2	大和川	大阪・奈良	8	7	5.6	6.8
	3	鶴見川	神奈川	4	4	5.1	6.6
	4	中川	埼玉・東京	5	5	4.6	5.6
	5	猪名川	大阪・兵庫	3	3	3.4	4.2
平成 12 年 (2000 年)	1	大和川	大阪・奈良	8	1	6.7	9.3
	2	綾瀬川	埼玉・東京	3	2	6.5	7.1
	3	鶴見川	神奈川	4	3	5.0	5.9
	4	中川	埼玉・東京	5	2	4.7	5.7
	5	猪名川	大阪・兵庫	3	3	3.0	3.6

大和川は平成 13 年調査地点において 1 地点欠測があるため、平均値・75%値は 7 地点で算出した。

2 計画の目的

本計画は、利根川水系綾瀬川とその支川を対象に、健全な水循環系の構築が重要であることに鑑み、河川水質のより一層の改善、生物の多様な生息生育環境の確保、身近な自然とのふれあいの場の確保等を目標として、水質及び水量の改善を図るための水環境改善緊急行動計画を策定するものである。

平成7年に策定された「綾瀬川清流ルネッサンス21計画」の推進により、最下位の脱却を果たすなど綾瀬川の水質は著しく改善されたが、本来の望ましい姿を取り戻すためには、流域住民と連携して継続的な水環境改善努力を推進していくことが必要である。

本計画は、平成22年(西暦2010年)を目標年次として、目指すべき計画目標及び目標を達成するために実施する水環境改善施策を示すものである。本計画の推進にあたって、改めて流域一体となった取り組みが重要であることを再認識し、綾瀬川と流域住民との新たな関係を構築し、地域に愛される綾瀬川へ再生していくことを目的とする。

また、本計画に定める水環境改善施策は、国、自治体等が連携しながら、それぞれの主体が実行可能なものから、着実に実施するとともに、住民参画によるモニタリング等も実施するものとする。これらの施策については、毎年、その進捗状況や水環境改善状況等について検証と評価を行い、施策の改善や新規施策の導入等を図りながら、実行していくものとする。

本計画の推進後の近い将来において、多くの流域住民が水質ランキングを意識する必要性が無くなり、一方で地域のシンボルとして強く意識される綾瀬川となることを願うものである。